

サンガのみなさまへ

— 台湾情勢について、いま私たちが静かに理解しておくこと —

1. なぜ「台湾有事」が突然のように聞こえるのか？

日本では長いあいだ、「平和はずっと続く」「海外の戦争には巻き込まれない」という感覚が社会全体に強くありました。

そのため、台湾の状況がニュースで語られると、
“急に言われても困る”“大げさに聞こえる”
という受け止めになりがちです。

けれど、台湾をよく知る私たちは分かります。
これは突然の話ではなく、長い年月をかけて静かに近づいてきた変化です。

2. 台湾の人々はどう受け止めているか？

台湾の人たちの考えは一つではありません。
それでも共通しているのは、

「戦争も望まないし、統一も望まない。ただ、自由で平和な日々を守りたい。」

というまっすぐな願いです。

私たちが台湾で出会った方々を思い浮かべれば、その気持ちはよく伝わるはずです。

3. いま“現実感”が高まってきている理由

台湾周辺では、ここ数年、中国の軍事的圧力が増えています。
専門家たちは「2025～2027年が特に緊張が高まる時期」と指摘しています。

私が台湾に通う中で感じてきた“ゆっくりとした不穏さ”が、
ようやく世間にも見える形になってきた、というだけなのです。

4. でも、必要以上に恐れる必要はありません

いま大切にすべきことは、

- ・恐れを増やすことでも、
- ・誰かを悪者にするすることでもありません。

国と国の関係は複雑で、白黒では割り切れない現実がたくさんあります。

だからこそ、サンガとしてできることは、
- 現実を正しく知る

- 静かに備えを進める
- 日々の祈りと修行を深め、心の安定を育てる

この三つに尽きます。

5. なぜ私たちに関係があるのか？

裏磐梯一法庵は、日本の仲間たちに加え、台湾の方々の祈りと助けによって成り立っています。

私たちは、台湾と日本の“縁(えにし)”の上に立つ道場です。

だからこそ、台湾を思うことは、自分たち自身を大切にすることでもあります。

6. サンガとしての姿勢

- 現実を正しく見る
- 恐れに巻き込まれない
- 情報を偏らず静かに受け取る
- 困っている人がいたら助ける
- 自分の修行を深め、慈悲の心で生きる

政治的立場ではなく、“人として、仏の道を歩む者として”できることをしていきましょう。

最後に

台湾有事が「突然の危機」に見えるのは、これまでの前提が変わりつつあるからです。

しかし、変化は恐れるものではありません。

私たちは、気づき・慈悲・つながりの力をもつサンガです。

静かに、しかし確かに、平和の文化を守る選択を積み重ねていきましょう。